

Geokanto2022 実行委員会 第4回委員会 議事録案

日 時：	2022 年 12 月 7 日（水）10：00～12：00			
場 所：	電子会議（Zoom ミーティング）			
出席者：	峯岸リーダー	西岡部会長	藤原部会長	安井副部会長
	友部委員	高垣委員	栗原委員	富安委員
	野々山オブザーバー	陳委員	藤本委員	斎藤委員
	戸上委員	野田オブザーバー	青木事務局員	
欠席者：	小田切委員			

議 題

1. 第3回委員会議事録(案)
既にメールにて回覧済みのため、重要な箇所のみ確認。
2. GeoKanto2022 の実施結果
 - 2-1 実施概要
 - 2-2 論文投稿数、優秀発表者賞、参加者数
 - 2-3 収支報告
 - 2-4 アンケート案
 - 2-5 実施報告案
3. 引き継ぎ事項
 - 3-1 学術部会
 - 3-2 総務部会
4. その他（次年度開催日と委員について）

次回委員会 日 時 月 日 （前回の開催はなし）

2.実施結果

2-1 実施概要

○G-CPD ポイントについて

今回の募集に際して、G-CPD ポイントについて明確に記載されていなかった。(過年度は記載) 会員がほとんどで周知しなくてもわかっていたことが考えられるが、クレームはなかった。

G-CPD ポイントの取り扱いについては、本部のレギュレーションも変わることも含めて、来年度は確認して記載する。

○DS（研究委員会企画）について

他のセッションと重なっていたため、思ったほど集客はなかった。研究委員会側では、主に学生の集客を目的として DS を提案したが、思惑とズレがあった。来年度は、研究委員会側への企画の目的の周知の仕方の改善も含めて、検討する必要がある。

2-2 論文投稿数、優秀発表者賞、参加者数

○論文投稿数、聴講者数について

2021 年度に比べて、論文投稿数は同程度で、聴講者申込み者数は 100 名程度の増（合計申込者 79 名から 181 名への増）であり、基本的には聴講料無料とした効果が大きかったと思われる。なお、実際の各時間帯の接続数の合計値だけをみると前年度の方が多いが、これは今年度は 2 日開催として同時開催セッション数を減らしたためと考えられるが、無料で G—CPD ポイントを入手したいと考えて、申し込みだけして実際には聴講していない方がいる可能性もある。仮に聴講していなかったとしても、動機はどうであれ聴講しようと思って GeoKANTO の Web サイトにアクセスしたことは事実であり、地盤工学会の認知度を広める観点を考慮すれば、無料化による減収の影響を考慮しても、メリットは大きかったと言える。

○副支部長“特別賞”について

優秀発表者賞については、一覧表のとおり異議なし。（参加者全員）

早稲田佐賀高校の板垣さんの“副支部長特別賞”について決議する。当セッションにおいては、採点数が 10 点、9 点の発表者が多数おり、高得点であったが優秀発表者から漏れてしまった。セッションの座長、運営委員会担当者の評価は高く、発表する姿勢や、質疑応答も 2 件行っており“特別賞”の資格はあると考え推薦することとする。

なお、前年度も「座長の評価は高かったが優秀発表者賞ではなかった小学生」に対して「副支部長特別賞」を授与している。また、当該小学生は今年度も発表しているが、今年度は座長の評価がそこまで高くないため、副支部長特別賞には該当しないと判断した。

2-3 収支報告

○収支報告について

確定金額(速報)ではなく見積ベースであるが、黒字決算となる見込みである。過年度に比べて 20 万程度収支は減っているが黒字で決算出来ればよい。収支が減った理由として、聴講料無料化のほか、スポン

サーが減ったことや 2 日開催したため経費が増加したことが挙げられる。来年度は、開催の方法（対面形式、ハイブリッド式、オンライン式）によりオンライン聴講者（今年度は無料）も含めて検討する必要がある。

2-4 アンケート案

アンケート案を確認・修正して今週中に、スポンサー、発表者、聴講参加者（G-CPD 付与）にメールする。

- ・ Q6 “ご意見” を削除して、Q11 を追加して総括し意見を頂く。
- ・ Q11 を追加するため、Q11 を Q12 に修正する。

2-5 実施報告案

実施報告をニューズレターに掲載する予定。（営業にも活用する）
修正追加箇所について

- ・ 第 19 回関東支部発表会（GeoKanto2021→2022）の開催報告
- ・ 下から 2 行目 2023 年〇月の開催→開催日程が決まり次第追記（現時点では、2023 年 11 月予定）

3. 引き継ぎ事項

3-1 学術部会

学術部会引き継ぎメモについて

●昨年度からの改善点の結果

“資料 3-1 引き継ぎ資料：学術部会” P14 の赤字のとおりである。特に図付要旨を継続する場合は、今年度のとおり 4:3 に統一した方良い。

●今年度を振り返っての提言

投稿締切り後の対応について

投稿締切り後に修正や再提出の依頼が多々あった。学術部会の担当と、トーヨー企画（江口氏）に負担が大きかった。対応の方針を検討した方がよい。提案としては以下の 2 点が考えられる。

- ① 従来通りケアするなら、メンバーと江口さんに心の準備をして頂く。
- ② 全国大会のように、閉め切ったらそれで終わりでも良い。

企業（スポンサー）に関しては、お願いしている部分もあり①のとおりケアが必要。学生については、代案として指導教員によりフィルターをかけて抑止力を持たせるなどがある。担当委員へ負担がかからないように検討する必要がある。（①と②の間くらいの対応）

座長の選定について

総務部会、学術部会に推薦してもらっていた。総務部会からは、関東支部の商議員に推薦を依頼する方法を取った。この方法を今後も踏襲するのか。

→半数一定以上は、商議員とし、8 月時点から候補選出を依頼し、その候補をベースに残り半数を学術部会で探してセッションを埋める。今回は、商議員の若手に依頼し断られることはなかった

が、依頼方法については、得意な分野でない場合もあるのでケアが必要である。（早めに担当論文の受け渡しなど）

プログラム編成について

“資料 3-1 引継ぎ資料：学術部会” P15 のとおりである。今年度より、技術紹介のセッション割り当てについては、総務部マターであったが、作業性（支払い他）を加味して受け持ちを検討する。

優秀発表者の採点基準について

座長の手引きを作成して、セッション内での周知は出来た。活発な意見が発表者間であり座長が困ることはなかった。（時間が余った場合は、セッションごとにまとめて質疑対応）

プログラム編成について

論文概要集については、要旨集とは別にトータル企画で作成する原稿をほぼそのまま完成形とする。各論文の 1 ページ目にヘッダーを追加し、全ページにページ番号を付記する。論文番号は要旨集と同一とし、論文概要未提出の論文を欠番とする。

3-2 総務部会

全体統括

- ・特段大きな問題はなく終了できた。
- ・今年から、聴講参加費用無料・当日受付可に変更した。・・・総聴講者人数の増減で評価出来た。
- ・要旨のみと論文概要有の選択と最終的な投稿の有無のチェックが連動しない・・・システム検討
- ・1.5 日間の開催・・・並列するセッションがなくセッション自体は盛上った。アルバイトへの説明、準備を余裕を持って行えた。
- ・DS は、例年時間オーバーすることが多かったが、今回は時間通り終了した。・・・参加者人数が少なかった。理由として学生向けの内容であったが一般セッションも並行していたことが考えられる。
- ・要旨集の作成・・・データ受け渡しを中央大学の GoogleDrive を利用した。来年度はクラウドサービスも含めて検討しておく必要がある。（PDF 編集ソフトなど）

次年度について

- ・対面が基本となると考えられるが、東京近郊以外在住者にはオンラインのメリットは大きい。開催日数を 1 日とするか、2 日（1.5 日）も要検討。1 日目を対面式、2 日目を完全オンライン（今年度方式）も考えられる。
- ・DS については、セッションの位置づけを再度確認して意思疎通をしておく必要がある。全国大会と同様に投稿セッションとして DS を選択した投稿が 5 編以上必要といった制約を設けた方がよいと思われる。
- ・座長を商議員経由で依頼するのであれば、8～9 月に各企業に依頼した方が良い。社会人の参加を促す方針であればスポンサー依頼だけでなく一般の投稿もお願いしてみる。
- ・対面参加の場合は、聴講参加費用については改めて協議する必要がある。参加に伴う入金方法については、オンライン決済システム（事前予約）、当日（割高案）は現金、後日請求にするなどが考えられる。

- ・論文概要の提出期限については、もう少し遅い時期とすることも検討する。

4. その他（次年度開催日と委員について）

開催形態について

各委員に次年度開催形態について意見を聞いた。ハイブリッド型（一方向配信のみ）が多く、次に対面型の意見が多かったが、完全オンライン型の意見もあった。

⇒次年度は、ハイブリッドにするか完全対面にするかは今後詰めるとして、現時点で1日は会場予約を行うこととする。完全オンライン型の意見に対しても、今年のセッション数からすると1.5日開催の可能性もあり、「1日目午後のみ完全オンライン」という方法などで対応できる可能性も残されている。

国立オリンピック記念青少年総合センター会議室に利用について

- ・ネットの設備を完備する予定→ハイブリッド方式も可能
- ・特別企画を行う場合は、120人の大部屋が必要と思われる。
- ・今年中に、基本方針を決定し部屋を抑える必要がある。
- ・一方的なキャンセルを行うとペナルティーが課せられるため、ある程度集客数を見込んで予約する。

→対面式、オンライン式に対応できるよう80人部屋を5部屋、40人部屋を4部屋予約する。日時は、11月17日（金曜日）、11月22日（水曜日 連休前）で検討する。

委員会メンバーについて

- ・委員の退任、留任、新任の推薦等を確認し、退任の委員には一言ご挨拶を頂き、今年度の委員会は終了とした。

以上